

知的障害特別支援学校 中学部第3学年 国語科 学習指導案

〔全体計画〕

日時	令和*年*月*日（*） 13：05～13：55	場所	中学部3年*組教室
指導者	T1〇〇, T2〇〇		
単元名	「説明文を読もう・書こう」		
単元 設定の 理由	本グループは、男子4名、女子2名の計6名で構成している。基本的な学習態度は身に付いており、学習に見通しがもてるように学習内容を提示したり、ワークシートを工夫したりすることで主体的に活動に取り組むことができる。日ごろから行事の振り返りなどで作文を書く機会を多く設けており、これまでの自分の経験を書くことに関しては、学習の積み重ねから30～80文字程度で書くことができる。しかし、助詞や接続詞を正しく使用せずに文章を書くために前後の文が繋がっていないことが多い。また、自分が伝えたい項目が多すぎて文章がまとまらないという様子も多く見られる。 そこで本単元では、特別支援学校中学部学習指導要領国語科の第2段階内容〔知識及び技能〕イ「(ア)考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。」、〔思考、判断力、表現力等〕B「書くこと」の「ア 相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること」に重点を置き、説明文を書く学習を取り扱う。説明文は、テーマを自分の興味関心に基づいて設定しやすく、インターネット等を利用して知識を深めて文章を作ることでもでき、どの生徒にとっても取り組みやすいものである。自分の好きなこと等について、相手に伝えたいという気持ちを引き出し、相手の視点に立って、分かりやすい文章を作ろうとする意欲につなげていきたい。また、短い文章の中で助詞や接続詞を選択し、文章を完成させる学習から始めるなど、段階的な単元構成で助詞や接続詞の正しい使い方を身に付けることもできると考える。 指導に当たっては、自分が好きなものについて相手にどう伝えるかを工夫して書くという学習過程に期待したい。ワークシートを用いて、伝えたい内容の整理や順序立てて文章を書くことなどを意識して学習に取り組むことができるようにする。また、自分が書いた文章を読み返して間違いがないかを確認することや接続詞や助詞に印を付けることで正しく伝えることができているかを確認すること、また、習った漢字は使うということの定着を図りたい。さらに、友達同士で読み合うことでお互いの良い点や改善点を見つけ、生徒達同士の気付きの場面を設定していきたい。		
単元の 目標	・助詞・接続詞を使って文章を書くことができる。(知識及び技能) ・伝える相手を意識して、文章を書くことができる。(思考力、判断力、表現力等) ・書いた文章を友達と共有し、意見を伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		
指導計画 (15時間版) 本時は 第10時	第1次 説明文を読もう 第1・2時・・・・・・・・・・・・・・・・・・助詞・接続詞に注意して文章を読もう 第3・4・5時・・・・・・・・・・・・・・・・・・説明文の内容を整理しよう 第2次 説明文を作ろう 第1・2・3・4・・・・・・・・・・・・・・・・・・説明文を作ろう 第5・6時(本時)・・・・・・・・・・・・・・・・・・説明文を発表しよう 第3次 まとめをしよう 第1・2時・・・・・・・・・・・・・・・・・・助詞・接続詞の使い方をまとめよう 第3・4時・・・・・・・・・・・・・・・・・・説明文の書き方をまとめよう		

〔本時の指導〕

1 全体目標

- ・自分や友達が書いた文章を読んで振り返り、助詞・接続詞が正しく使えているか、伝わりやすい文章になっているかを振り返っている。(思考力、判断力、表現力等)

2 生徒の実態及び個別目標

生徒 学年	生徒の実態	個別目標	自立活動の目標
A 3年	・自分の経験を 80 文字程度の文章で書くことができる。 ・助詞を正しく使用されていないため文章が繋がっていないことがよくある。 ・分からないことがあると教師に聞くことができずに考え込んでしまうことがある。	・助詞を適切に使い、相手に伝わりやすいように文章の内容を整理して書くことができる。	・分からないことは聞き返したり質問したりして自信をもって活動することができる。(心理的な安定)
B 3年	・作文を書くときに、何を書いているかわからなかったり、自分で思うように書くことができなかつたりすると黙ったままだまうつむいてしまう。 ・自分の体験したことを 30 文字程度の文章を書くことができる。	・自分や友達の書いた文章を読んで書いた内容が伝わりやすいものになっているか振り返ることができる。	・分からないことは質問することができる。(心理的な安定)
C 3年	・文章を読んだり、書いたりすることに自信があり意欲的であるが、自分の意に反することがあると感情的になることがある。 ・作文を具体的に書くことができる。 ・助詞を正しく使用できていないことがある。	・自分の書いた文章を読み、内容を整理して説明文を書くことができる。	・分からないことは聞き返したり質問したりしながら課題を解決することができる。(心理的な安定)
D 3年	・自分の経験を 50 文字程度の文章で書くことができる。 ・助詞を正しく使用できていないことがある。	・文章の内容を整理し、順序立てて説明文を書くことができる。	・相手に伝わりやすい文章を工夫して書くことができる。(コミュニケーション)
E 3年	・自分の経験を 50 文字程度の文章で書くことができる。 ・定型がないことが苦手で、書く内容を繰り返し教師に確認することがある。	・文と文のつなぎ方を意識して接続詞を使い、説明文を書くことができる。	・困ったことがあったときに、感情的にならずに質問することができる。(人間関係の形成)
F 3年	・文章を書くことに苦手意識があるが、自分の経験をもとに 50 文字程度の作文を書くことができる。 ・助詞を正しく使えていないことが多い。 ・書いた文章を読み返す習慣がなく、誤字脱字等に気が付かないことがある。	・文章を読み返し、間違いを正したり、語と語の続き方を確かめたりすることができる。	・相手の話を遮らずに最後まで話を聞くことができる。(人間関係の形成)

3 展開

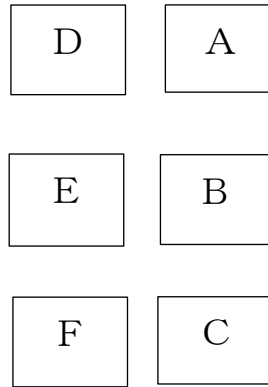
※形態の表記は 全体：全，グループ：グ，個別：個

形態 時間	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て（各Tの役割等）※評価は□で囲む
全 15	1 始めの挨拶をする。	・姿勢を正して挨拶するよう言葉かけをすることで，学習の始まりが意識できるようにする。 ・本時の学習予定と何を学ぶのかが分かり意識できるように一人一人の目標を掲示し，伝える。 ・T 1 は前時に使用した説明文を作成のポイントを振り返りながら学習内容について説明することで，生徒が期待感をもてるようにする。
	2 本時の学習内容について知る。	
個 10	「説明文を発表しよう」 (1) まちがいさがしをしよう (2) 文章を推敲しよう (3) 発表しよう (4) 振り返り	F：文章を読み返し，間違いを正したり，語と語の続き方を確かめたりしている。(思考・判断・表現)〔観察〕
	3 助詞・接続詞の間違いに気付き，訂正する。	
全 20	4 前時に自分で書いた説明文を読み，助詞には青，接続詞には赤いペンで印をつける。	・T 1 は，生徒が自分で印をつけたところに間違いがないかを意識して見直すように伝える。 ・T 2 は生徒一人一人の様子を確認し，質問をしやすい環境を設定する。 ・T 2 は生徒Eの気持ちが不安定になったときは質問に答えるなど個別に対応する。 ・印をつける前後の文章を写真に残すようにする。 ・発表時は，発表者の声だけで聞き取るのではなく，発表者の文章をスクリーンに映すことで，視覚的にもわかりやすいようにする。 ・発表を聞くときの観点を明確にし，評価できるようにする。
	5 発表する。	
	・1人ずつ発表する。 ・発表している人以外は気付いた点をアドバイスシートに記入する。 ・1人の発表が終わるごとにアドバイスを元に良かった点や改善点を話し合う。	・自分や友達が書いた文章を読んで振り返り，助詞・接続詞が正しく使えているか，伝わりやすい文章になっているかを振り返っている。(思考・判断・表現)〔観察〕
		A，D：助詞を適切に使い，相手に伝わりやすいように文章の内容を整理して書くことができているか振り返っている。(思考・判断・表現)〔観察〕

		B, E:自分や友達の書いた文章を読んで自分が書いた文章の内容が伝わりやすいものになっているか振り返ることができる。(思考・判断・表現)〔観察〕 C:自分の書いた文章を読んで伝えたい相手を意識して,文章の内容を整理して説明文を書くことができるか振り返っている。(思考・判断・表現)〔観察〕 ・本時の生徒達の感想を聞き,良かった点や次回以降努力する点を伝える。 ・次時の学習内容を告げ,見通しがもてるようにする。 ・姿勢を正して挨拶するよう言葉かけをすることで,学習の終わりを意識することができるようにする。
全 5	6 本時の学習内容を振り返る。 ・本時の感想を聞き、振り返る。 ・次回の学習内容を告げる。 7 終わりの挨拶をする。	

[板書計画]

○本時の振り返り
・分かったこと・気付いたこと



目標

学習内容

- ・説明文を発表しよう。
- 一、まちがいがしをしよう
- 二、文章を推敲しよう
- 三、発表しよう
- 四、振り返り

「説明文を作ろう」

[教室配置] <発表時>

